



令和7年5月26日（月）、北三沢地区にて三沢市立おおぞら小学校による田植え体験学習が行われました。

北三沢地区は三沢市北部に広がるラムサール条約登録湿地「仏沼」の西に隣接し、湿地で繁殖するオオセッカ等の野鳥に配慮しながら、平成22年度から27年度にかけて、ほぼ休耕地だった約100haの水田を大区画ほ場に整備した地区です。

おおぞら小学校では、同地区の担い手である農事組合法人「フラップあぐり北三沢」やJAおいらせ青年部、北三沢土地改良区の協力により、平成29年度から本地区で農作業体験を実施しています。去年までは4年生以上が参加していましたが、今年は全校児童88名が参加し、田植えを行うこととなりました。

当日は強風と前日まで降っていた雨で例年になく寒さの中での田植えとなりましたが、参加した児童たちは「苗は3本、心は1つ」のスローガンの下に、苗の束を丁寧に取り分けながら水田に植えていきました。



【田植えの仕方を教わる児童】



【水田にはだしで入る様子】



【田植えの様子】



4年生以下の児童は初めての田植えで、最初は泥の感触におっかなびつくりの様子でしたが、コツをつかむと高学年の児童と同じくらいの手つきと早さで次々と苗を植えていく子もいました。しかし中には田植えに夢中になりすぎてバランスを崩し、田んぼの中で尻もちをついてしまう児童もいましたが、それすらも楽しそうに笑い飛ばしていました。



【バランスを崩して「あっ……」】



【それでも笑顔！】

秋には児童たちが自分たちで田植えしたお米をみんなで収穫作業を行う予定となっています。活動を通して、児童の皆さんには土に親しんで働くことの苦労や食べ物大切さを学んでもらえたら何よりです。



【田植え学習のお礼】



【田植え後の水田の様子】

3本以上で植えられているところもあるようだが、ご愛嬌ということで

関連事業：中山間地域ふるさと活性化事業（通称：ふる水基金、棚田基金）
<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noson/hurumizutanada.html>